



努力は

必ず報われる

受賞者：大山 魅香さん

「先生、この鎮静薬を中止してみませんか？」

Aさんは18歳。交通事故で脳挫傷、心破裂を起こしており、余命が厳しいことを告げられていた。気切チューブに胃管チューブ、点滴ルートは数カ所、全身にあらゆる管が入っており、多量の鎮静薬で眠らされていた。誰が見ても予後は厳しい状況であったが、看護師として20数年、「この子は頑張れる」と何の根拠もない勘が働いた。自分が受け持ち看護師として、また、Aさんと同じくらいの子どもを持つ母親として、どうしても回復してほしいという願望が強かったのかもしれない。

鎮静薬を中止してから3日目、感情失禁が出てきた。点滴を中止し、栄養チューブ以外の管を全て除去した。車いすへ移乗し、水を口に含ませると彼女に笑顔が見られた。

「これはいける！」と確信した瞬間だった。それから自分にご飯を食べることから少しずつ練習を始めた。脳挫傷の影響で視力障害が残ったが、愚痴一つ言うことなく「家に帰りたい」と毎日リハビリを頑張っていた。看護師、医師、関わりのあるすべての人を声で覚えたことは本当に驚いた。努力している姿や劇的に回復していく過程をその日あった出来事に写真を添え、日記として残していくことにした。本人の努力のかけがあり、ほぼ見守り程度で日常生活が送れるまでに回復し、なんと134日目に自宅退院となった。退院時、彼女に日記を渡した。振り返って見てみると、私が残している言葉は「すごいね！」「すごい！」ばかりだった。彼女に言えることはそれしかないと思う。涙ぐむ私に彼女は「大山さん、私、『アンビリバボー』に出られるね！」「24時間テレビ」でもいいかな？」。冗談交じりに言った。私はうなずくことしかできなかった。自分が努力し、それが報われたから言えることだと思う。看護師人生も折り返し地点を過ぎた。ここまでの奇跡を見せてくれたのは初めてだった。長い彼女の人生をこれからも応援していきたい。